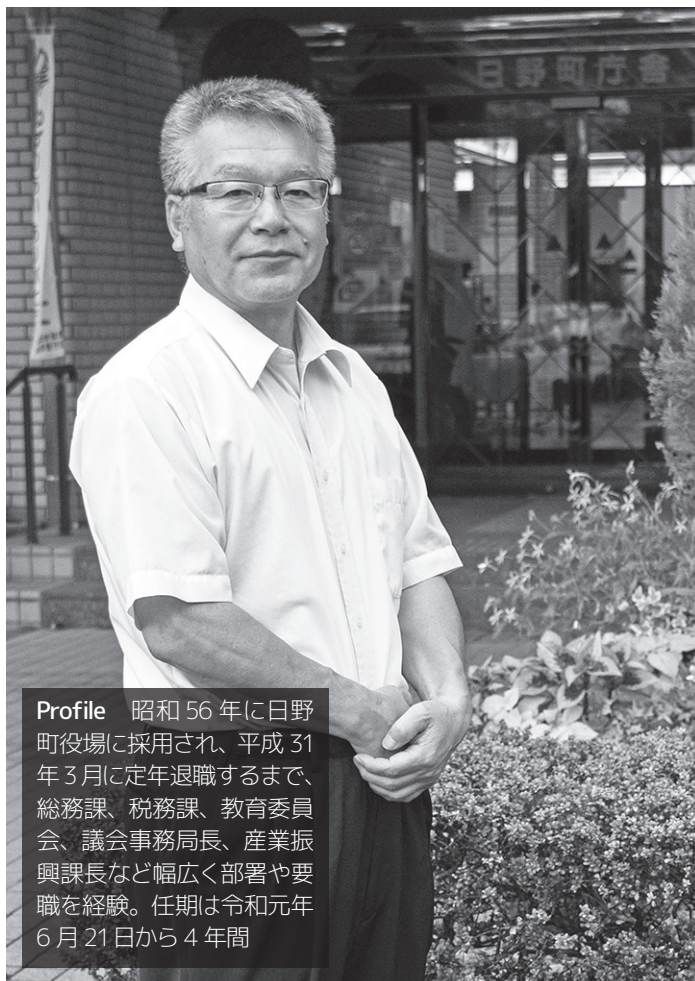


INTRODUCTION — 副町長を紹介します —



Profile 昭和 56 年に日野町役場に採用され、平成 31 年 3 月に定年退職するまで、総務課、税務課、教育委員会、議会事務局長、産業振興課長など幅広く部署や要職を経験。任期は令和元年 6 月 21 日から 4 年間

日野町政が始まって長らく空席となっていた副町長。このたび、議会の同意を得て、6 月 21 日付で新たに音田守さん（野田）が就任しました。

日野町 副町長

音 田 守

まちづくりには「自助」「共助」は不可欠。皆さんとともに進めていきたい

「まずは、意気込みを聞かせて下さい。」

「再びこうして行政に深くかかわらせてもらえたことにまずは感謝したいです。そして、これまで培ってきた行政経験などを生かしながら、皆さんが住んでよかったと思えるまちづくりをみんなが進めていきたいです」

「具体的に取り組んでいきたいことは？」

「役場に採用されたころに比べ、人口は半分の

三千人ほどにまで減っています。進行する過疎化と住民の高齢化の現実を直視して、移住定住、空き家対策、担い

手不足の課題に向き合い、元気なまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。しかし、そのためには、行政（公助）、皆さんの自助や共助とのつながりが今まで以上に必要不可欠です。よりよいまちづくりを進めていくため、皆さんのご協力をお願いします」



日 野 町 制 6 0 周 年

日野町オリジナル キャラクター を募集します！

募集期限

8.30 (金) 必着

みんなの思いがカタチに♪
プロ・アマ問いません。
誰でも応募 OK！

日野町は、今年で町制施行 60 周年を迎えました。町では、それを記念して、まちの魅力や地域の特産品などの発信、地域の活性化などを目的に、将来にわたって皆さんに親しまれるオリジナルキャラクターを募集します。

募集内容 / 日野町のさまざまなイメージを表現し、誰もが親しみを持てるキャラクターのデザインおよび名称

応募資格 / プロ・アマ、町内外を問わず応募可能

応募条件 / ▼ 1 人何点でも応募できますが、応募用紙 1 枚につき 1 作品とします。▼ 応募作品は、自作で未発表作品に限ります。▼ 採用作品は、町においてデザインを一部補正、修正して使用場合があります。また、名称やプロフィールについても変更する場合があります。▼ 採用作品の応募者は、受賞と同時に日野町に対して当該作品の著作権を無償譲渡することとし、その他作品に関する一切の権利についても日野町に帰属するものとし

ます。※そのほかの応募条件については、応募要項もしくは町ホームページをご覧ください。

応募方法 / 郵送、メール、役場窓口提出のいずれか

選考方法 / 選考委員会にて選考、決定します。

選考結果 / 採用作品は、令和元年 10 月 27 日（日）開催予定の町制 60 周年記念式典で発表し表彰します。

賞品 / ▼ 最優秀賞（1 点）：日野町特産品（3 万円分）

▼ 優秀賞（2 点）：日野町特産品（1 万円分）

申込みおよび問合せ先 / 日野町役場企画政策課（担当：三好）
〒 689-4503 鳥取県日野郡日野町根雨 101 番地

TEL：0859-72-0332 Email：miyosi@town.hino.tottori.jp

まちなみと一体化した 建物の保存・活用を

旧山陰合同銀行根雨支店の保存・活用にかかる提言（最終報告）

町では、根雨の「旧山陰合同銀行根雨支店」（昭和4年建築）について、平成30年12月3日に山陰合同銀行から無償譲渡を受けました。加えて、平成31年3月28日に、旧山陰合同銀行根雨支店活用検討委員会（杉原幹雄座長）から、保存・活用にかかる提言の最終報告がありました。その内容を紹介します。

提言のポイント

<旧山陰合同銀行根雨支店の保存・活用>

- ▼旧山陰合同銀行根雨支店の建物は、たたら製鉄がもたらした文化・歴史を語る上でも、根雨のまちなみ景観を形成するうえでもとても貴重な建物である。また、現存する昭和初期の洋風銀行建築としても数少ないことから、町が無償譲渡を受け、保存・活用を図ることが必要である。
- ▼無償譲渡を受けた後の活用方策については、さまざまな意見が出されたが、このことはこの建物が将来有効に活用できる可能性があることを証明するものと言ってもよく、今後議論を深めるためには、これらをおおむね4つの案に集約した。
（案1）多目的スペース （案2）町役場の出張所もしくは地域おこし協力隊などの事務所
（案3）町民ギャラリー、カフェコーナー （案4）美術館
- ▼町が最終的な活用方策を決定するにあたっては、試行期間を設け、ほかの類似施設とのすみわけに配慮し、費用対効果を勘案し、管理手法も併せて検討するなど、総合的に判断していただきたい。

<根雨のまちなみの保存・活用>

- ▼宿場町として栄えた、たたら製鉄の隆盛とともに発展していった根雨は、ほかにはない特長を備え、歴史的・文化的価値のある貴重なまちなみである。
- ▼複数ある歴史的建造物を相互に連動させて一体としてアピールしたり、既存事業の継続や住民の自発的な美化活動などを支援し、周辺の観光施設から根雨のまちへの誘導を図ることによって、点から線へ、線から面へとストーリー性を持って売り出すことが必要である。
- ▼一方で、鳥取県西部地震以降、人口流出によって空き地や空き家が増加しており、それらの活用に向けた抜本的な対策を講じ、また先駆的モデルを率先して創出する姿勢も必要である。
- ▼これらの取り組みの前提として、地域住民にまちなみの魅力、保存の必要性を十分に理解してもらうためのワークショップや勉強会などの機会を設け、共通認識を醸成することが必要である。
- ▼初期の段階では行政が主導することも必要である、ビジョンやロードマップの策定などは行政が前面に出て推進すべきであるが、すべてを行政が担うのではなく、民間と協働して取り組んでいくことが重要である。
- ▼根雨のまちなみがより魅力的なものになることによって、旧山陰合同銀行根雨支店の建物の付加価値を上げることにあり、また逆に旧合銀を拠点として有効に生かすことで、まちなみ全体の魅力をより高めることにもつながる。

町としての方針

町では、今後、町民の皆さんの意見を聴きながら、旧山陰合同銀行根雨支店を含めたまちなみを保存・活用していきたいと考えています。

